

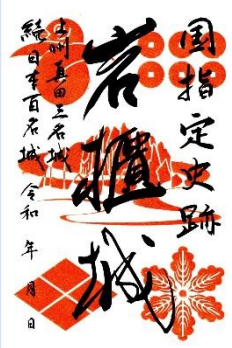
# 忘年山行 岩櫃山・岩櫃城址とハッ場ダム

2022年12月20日(火)～21日(水)

LMCの今年三回目の山行、忘年山行へ行ってきました。

群馬県吾妻町にある岩櫃山は、ぐんま百名山の一つで802.6メートルの山です。中腹には岩櫃城址があり、真田一族にゆかりの深い城だったとか。

右の御城印と御朱印は、現地にも早く到着された樋口さんがお受けされて、送ってくださったものです。密岩神社と金剛院には今回は経路が違って参拝できませんでした。



群馬原町駅に樋口さんがマイカーで先着して、タクシーを手配しておいてくださった。それに乗り込み平沢登山口へ。左写真の案内所などは冬季閉鎖になっていた。(10時15分)



吾妻線車内から見た岩櫃山：写真=阪西



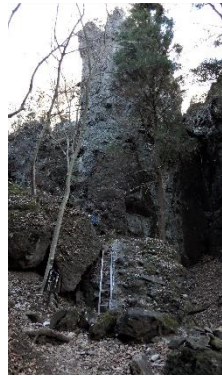
準備を整えて歩行開始。往路は「沢通り」に行く。なだらかに登るとやがて「コニファー岩櫃」への分岐があり、やまみちらしくなってくる。(10時35分)



「櫃の口」に着いた。ここからの登りは、段差が大きい場所、梯子や鎖場が現れてきた。(11時10分)



最初の梯子は、「天狗の蹴上げ岩」直下にある。右は「天狗の蹴上げ岩」全景。もちろん、この岩には登らない。(11時15分)



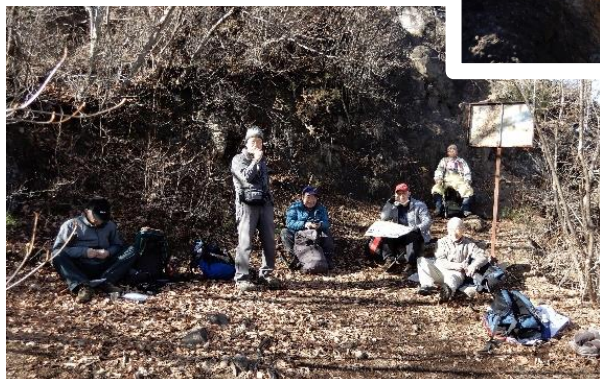
大岩の間を抜け、八合目についた。冬枯れの樹間から麓の町が見える。この場所に立つために鎖に頼って登ってきた。(11時35分)



九合目に着いた。丸い岩峰が山頂で旗が一本立っていた。(12時30分)



九合目のピークで。左は、昼食を終えてくつろいでいるところ。こういう時間も、山にきていいなあ、と思う瞬間だ。(11時25分)



記念写真を写して下山にかかろう。(12時30分)



# 忘年山行 岩櫃山・岩櫃城址とハッ場ダム

② 2022年12月20日(火)～21日(水)



岩櫃山九合目のピークからの風景。左は吾妻川の下流側。群馬原町あたりの町並みか。上は上流側で、遠くに雪で白く輝く山が半分雲に隠れて見えている。



下りにかかる。登ってきた道だけれども下りのほうが難しい。梯子は両手で掴んで、慎重に、慎重に。(12時57分～13時00分)



「一本槍」の狭間を行く樋口さん。(13時03分)

左写真は「一本槍」という場所。昔、岩櫃城を裏側から攻めようとやってきても、ここは槍を一本持った兵が一人しか通れない、ということから名付けられたのだと思う。槍を持ってなくても、一人しか通れそうにない。



大岩の間を行く険しい道ももう少しで終わる(はずだ)。(13時07分)



「櫃の口」に戻ってきた。(13時11分)



「赤岩通り分岐」ここから「尾根通り」になる。(13時12分)



落葉が道を埋めていて滑りそう。(13時32分)



尾根筋の「天狗岩」を通過。(13時41分)



「尾根通り」五合目地点。(13時47分)



本丸址に着いた。右写真は岩櫃城の説明を読む梶山さん。(13時53分)



城の歴史や縄張りなど説明を聞きながら、城址の周りを歩いたら面白いだろうと思う。右の写真は、岩櫃城の由来記。

**岩櫃城由来記**  
吾妻八景を代表する岩櫃山(標高八〇二)の南東面にあるこの城は、年代は定かではありませんが、鎌倉時代初期のころ、吾妻太郎助亮により築城されたとされています。城郭の規模は、一四、平方丈と上州最大を誇り、後に甲斐の岩殿城、駿河の久能城と並び武田領内の三聖城と称されました。その後、斎藤氏の支配するところとなり、永禄六年(一五六三)武田信玄は上州侵略のため、重臣貞田幸隆に岩櫃城攻めを命じました。ときの城主斎藤基国(または基忠)といわれ堅城を築き、奮戦しましたが、ついに落城してしまいました。こうして岩櫃城は武田氏の手に落ち、信玄は幸隆に吾妻郡の守護を命じました。天正二年(一五七四)に幸隆が世を去り、岩櫃城主には長子の信綱が取り継ぎましたが、翌年、長篠の戦いで信綱、昌輝兄弟が戦死したため、貞田家は幸隆の三男、昌幸が相続しました。その後、昌幸の長男昌幸が支配し、信幸の弟幸村も少年時代をこの城で過ごしたといわれています。天正十八年(一五九〇)北条氏の滅亡により、信幸は初代沼田城主となり、岩櫃城は沼田の支城として、重臣出浦対馬守を城代としました。そして、幾多のドラマの舞台となった岩櫃城も徳川家康が発した「一國一城令」(慶長二十年(一六四五))により、四百余年の長い歴史を残し、その姿を消しました。  
東吾妻町観光協会



平沢登山口に戻ってきた。群馬原町駅までの道程を残すのみ。(14時14分)

岩櫃城本丸周辺の「空堀」の一部。

(つづく)



# 忘年山行 岩櫃山・岩櫃城址とハッ場ダム

③ 2022年12月20日(火)～21日(水)

岩櫃山から岩櫃城址を巡って、平沢登山口に着くとまだ2時15分であった。群馬原町駅 16時23分の電車に乗る予定だったが、急げば14時59分の電車に間に合いそうだ。

星さん、阪西さん、成田さんと勝沼の4人は休まずすぐに歩き出した。樋口さんはマイカーで、川村さんと梶山さんはそれに同乗して宿に向かわれる。徒歩組は、発車の5分くらい前に駅に着き、予定より約1時間半早くに川原湯温泉駅に着いた。

駅前に宿の主人が車が迎えに来てくれていて、お陰で夕食前に温泉にゆっくり入ることができた。



「南十字星」という部屋の窓から見えるダム湖「ハッ場あがつま湖」と「ハッ場大橋」の景色。すぐ下の丸い広場では毎年1月20日の早朝5時から「湯かけ祭り」が行われるのだそうだ。

広場の上に見えるタンクは、温泉を一旦ここに貯めて旅館等に配湯する装置。

この「南十字星」という部屋には、10畳ほどの和室の他、上の写真のような部屋がついていて、風呂あがりに早速始まった宴会の様子。ダムの底に沈んだ宿が移転してきたもので、新しい設備で気持ちがいい。



令和4年12月20日(火)

今日は、当館の夕食を御利用頂き誠に有難うございます。ごゆっくりお寛ぎください。

《本日の dinner MENU》

- ベーコン・カリフラワー・ほうれん草の炒め物
- ビーフシチューのスープで煮込んだ もつ煮
- ふろふき大根の洋風トマトあんかけ
- ビタミン大根のポタージュ
- 鯛・サーモン・エビと鰹タルタルのカナッペ 4種の大根のマリネ
- 牡蠣のグラタン
- メインディッシュ【上州牛のハンバーグ】
- デザート & コーヒー

当日のメニューを、転記した。どれも洋風な名前がついているが、懐かしい和風の味がした。素材の味を生かす味付けになっていたからだろうか、どれもおいしくいただいた。部屋に戻ってまた飲んだが、良い時間に切り上げてもう一度温泉に入り、就寝した。

12月21日も良い天気だ。みんな7時前には起床して顔を洗いに温泉へ。着替えを済ませ、パッキングも終わって、食堂で朝食をいただいた。

ダムを見に行かず、マイカーで先に帰られる樋口さんの見送りを受けながら、9時にハッ場ダム見学のために宿を出た。重いザックは、昼食もこの宿でお願いするので預かってもらい、身軽で歩くことができた。



下からダムを見上げる。

ダムの上から見下ろす。左上の道を行くと、吾妻峡遊歩道に至る。

上の写真の○は発電機室で、窓に「現在の発電量」の表示が出ていた。



「ハッ場大橋」の真ん中から下流を見た。ダムの天端が見えている。ダムの左に建つ白い建物は「なるほど! やんば資料館」で、完成までの経緯やダムのことを学べる。



今回お世話になった「やまきほし」さん。

宿の主人夫妻の対応も、ダム見学に立地も良いので、家族旅行にも利用したい宿。

ビールとカレーライスの昼食後、徒歩で川原湯温泉駅に向かった。

(おわり) 勝沼